

発行所 東京都新宿区左門町11番地6の101
〒160-0017
社団法人 大学婦人協会
電話 03-3358-2882
FAX 03-3358-2889
http://www.jauw.org
E-mail:jauw@tky2.3web.ne.jp
発行人 今井 けい
編集責任者 松本 佳子

J A U W

おもな記事

- 1面 会長、青木氏、房野氏あいさつ、IFUW総会報告
- 2～3面 パネルディスカッション、セミナー
研究発表要旨、企画委員長のことば
新春のつどい、第4回自然科学講演会のお知らせ、支部だより、若手会員パース
総会見聞記、理事会から、新入会員

第28回IFUW(国際大学婦人連盟)総会報告 —青木怜子会長任期満了、新会長にケニオン氏(英) 房野桂女性の地位委員も退任、JAUWから42名が参加— 2004. 8. 4～10. パース(オーストラリア)

国際委員長 穂田 信子



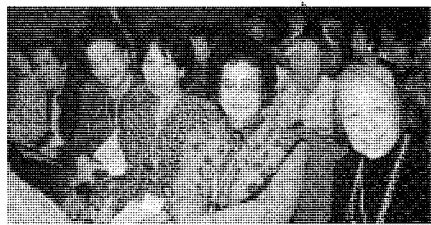
開会式であいさつする青木会長

大学婦人協会の国際組織IFUWの3年に1度の総会が開催された。オタワ総会で就任以来、この組織体を率い励ましてこられた青木怜子会長の任期満了の大会に、日本から会員42名、同伴者5名が南半球へと旅立った。開催地パースは、スワン川沿いに発展する、西オーストラリア州の州都。中心街には高層ビルが聳立するが、高台の公園、ユーカリの街路樹と市内は緑豊かで、インド洋から来たものか、川にはイルカも群れ遊んでいた。ここに、世界数十カ国から400人以上の女性たちが集った。

第1回本会議、青木会長の司会のもと、イギリスのグリゼルダ・ケニオン氏が満場一致で新会長に選出された。「初めてのIFUW総会が日本、そして今回日本人会長から職を引き継ぐのも縁か」と感慨深い様子。副会長に、ニュージーランド、カナダ、トルコ、米国の4名が当選した。

会場のシェラトンホテルは、旧交を温め合う人々、バザーや展示(愛知支部、神戸支部が出展)でいつも活気に溢れていた。コミュニケーション戦略ワークショップでは田中正子、平川敦子会員がセッションの進行役を務め、「平易な英語を使えばより多くの会員が直接IFUWニュースに触れられる」等、具体的な提案をした。学際(ID)セミナーのひとつ「平和の文化」の座長に選ばれた藤村久美子会員は、1年以上前から論文審査をし、9人の話者による発表と討論を組んだ。コミュニケーション論から女性割礼問題まで、地域の現実問題が世界の会員と共有された。残念なことに急遽不参加となった藤村会員に代わり田中会員が座長を、穂田が書記を務めた。なお田中会員は今回、IFUWの国際奨学金授与委員に任命された。

ワークショップは西オーストラリア大学の広いキャンパスで5日に行われた。日本からは、岡山支部と国際委員会が「日本のICT教育」を、小谷野錦子会員はカナダの会員と共同で「シンプルな生活をテーマに、青木会長も、国連とそれに諮問的地位を

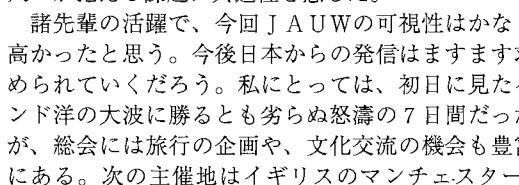


開会式で、右から房野IFUW委員、今井会長、穂田国際委員長、山本前会長、田中副会長

赤い紙をもって投票もつIFUWの関係をそれぞれ発表した。

今大会中、大学婦人協会の国際主義、自分のためではなく民主的な社会のため、との理念が繰り返し語られた。「IFUWの歴史と謎」と題して、房野会員は、総会やUWAなど地域会議の意義、国連会議に参加することの重要性を述べ、日本の北京+10に向けた取り組みを、自身の体験をもとに紹介した。「平和への熱い思いが一番大きな拍手があった」とは、斎藤会員の弁。日本の有志が集めたIFUWへの多額の寄付も高く評価され、皆の気持ちも強めた。本会議では、今井会長、房野、廣田会員らが活発に意見を述べ、決議文や支援意見に反映された。最終日前日、定款等の修正と19本の決議が次々と採択にかけられ、6フランの会費値上げ、郵送による理事選挙等が可決された。決議には高齢者や子ども、少数派の隣人への視点を含むものが多く、人々が抱える課題に共通性を感じた。

諸先輩の活躍で、今回JAUWの可視性はかなり高かったと思う。今後日本からの発信はますます求められていくだろう。私にとっては、初日に見たインド洋の大波に勝るとも劣らぬ怒濤の7日間だったが、総会には旅行の企画や、文化交流の機会も豊富にある。次の主催地はイギリスのマンチェスター。参加者が多ければ、本会議に通訳がつく。次回はあなたも是非ご参加ください。



開会式で、右から房野IFUW委員、今井会長、穂田国際委員長、山本前会長、田中副会長

青木怜子さんは、6年間の副会長、そして3年間の会長職を見事に果たされ、IFUWから大きな花束をもらって退任された時、会員委員を6年、女性の地位委員を3年務めて任期を終えた私は、あふれる涙を抑えることが出来なかった。JAUWの可視性を高めようと二人で努力してきた9年間のことが、走馬灯のように頭をよぎったからである。

例えば、国際奨学金の募金に始まり、横浜会議の準備委員長、CIR、そしてIFUW委員、会委員として、JAUWのために、お金と時間と頭と体力を使って、よく働いたものと思う。常にIFUWを評価し、応援・激励して下さった大勢の会員には、心から感謝申し上げたい。IFUWのランブの灯を消してはならないという想いは、この度のJAUW有志からの、IFUWへの2万3千スイス・フランを超える募金となって具現化し、大歓迎された。

前IFUW女性の地位委員
房野 桂

8月に西オーストラリアのパースで開催されたIFUW総会に出席し、また、10月にはJAUWの全国セミナーを開催して、改めて大卒女性の組織を国際的な視野から俯瞰する機会を得ました。

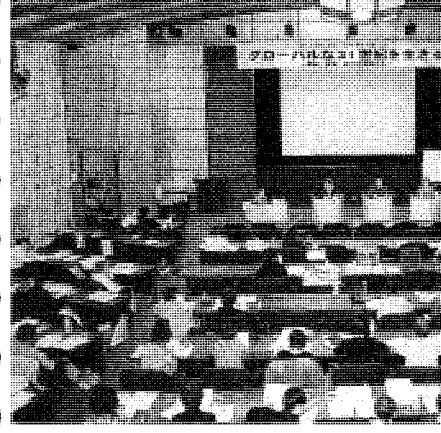
IFUWでは6スイス・フランの会費値上げが決まり、JAUWでは全国セミナーに打ち切られる補助が今年度を最後に活動全体に対する文部科学省の方針の変更からです。

それぞれの組織で事情が異なりますが、

IFUWは女性の数少ない国際的組織であること、国連その他に重要な女性政策を提言する不可欠な組織であることが、参加者によって再確認されました。

ひるがえってJAUWでは、6スイス・フランの値上げに対処すべく、目下、いくつかの方策を練っています。

会員の増強もさし迫った課題です。近年、NGO活動が環境、平和、子育て支援、途上国援助など、その目的が専



セミナー会場全景

このグローバル化に対応できる貴重な組織と

今年度のセミナーでは、少子高齢化対策、男女平等のいっそうの推進、西アジアの平和の構築などタイムリーな問題が討議されました。とくにパネルディスカッションでは、西アジアの歴史と文化に造詣が深い板垣雄三、片倉もとこ先生方から、現在の紛争解決に当たって「植民地主義とその犠牲者」という視点の重要性について、貴重な示唆をいただきました。

セミナーから得られた「提言」が、有効に社会で、またJAUWの会員たちによって実現されることを願ってやみません。

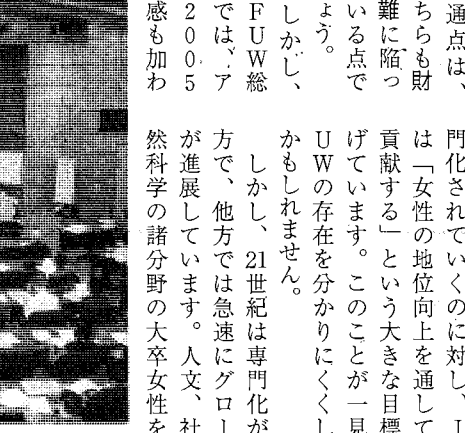
IFUWは、実は国際社会にあつてはブランドものだという事実をご存じでしょうか。それは、IFUWの過去の実績は勿論、高等教育を受けた会員が、その受けたものを社会に還元するというユニークな使命を持っていることへの評価に他なりません。ならばこそ私どもは、火種を絶やすことなく、IFUWのランブをともし続けなければならないと思っています。

前IFUW女性の地位委員
房野 桂

2004年度JAUW全国セミナー 「グローバルな21世紀を生きる」 —平和・平等・教育の視点から— 10月9日(土)、10日(日) 国立女性教育会館にて

相次ぐ台風の中、来賓に、文科省から男女共同参画学識課課長清水明氏とスエック理事長神田道子氏を迎え、全国から135人が参加。パワーポイントの技術はさらに向上し発表を盛り上げた。2日目、IFUWからのメッセージと報告があった。

IFUWは女性の数少ない国際的組織であること、国連その他に重要な女性政策を提言する不可欠な組織であることが、参加者によって再確認されました。



台風の中、アプローチを研修棟へ急ぐ参加者

共通点は、どちらも財政難に陥っている点でしょう。しかし、IFUW総会では、アメリカ大学婦人協会の2005年度会費不払いの危機感も加わって、組織そのものの存在意義について熱心な討論が行われました。

しかし、21世紀は専門化が進む一方で、他方では急速にグローバル化が進んでいます。人文、社会、自然科学の諸分野の大卒女性を包摂する

新潟県中越地震お見舞

大地震による被災者の方々に心からお見舞い申し上げます。

新潟支部の方々には、長岡市のお一人を除いて(軽度のこと)幸い被害はなかったとのことお返事がありません。JAUWの皆様からのご配慮に、同支部長からお礼状が届いています。 会長

IFUWパース総会を終えて

JAUWを代表し、長年、国際組織のトップで数々の足跡を残してこられたお二人に、退任のお言葉をいただきました。

前IFUW会長 青木 怜子

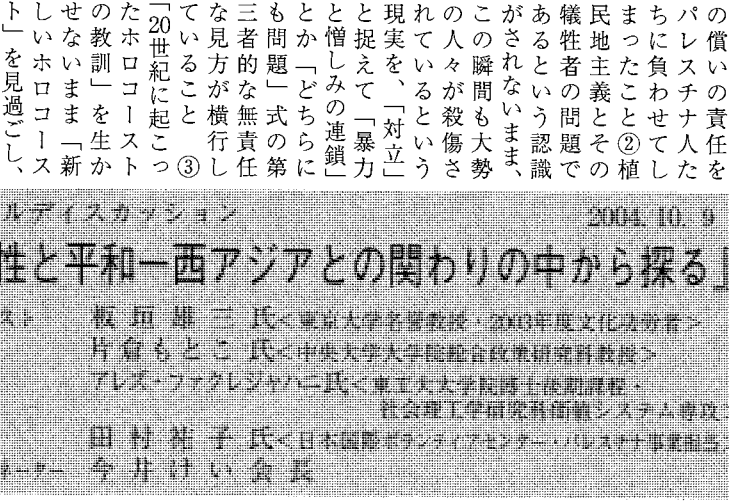
パネルディスカッションは、今井けい会長司会で行われた。板垣氏は、「21世紀に入った途端に『対テロ戦争』に突入し世界が絶望的な状況に陥ったことについて、まずその原因や問題点に言及。①根本原因はパレスチナ問題の『不公正』。20世紀に起こった『ホロコースト』をくいとめられず、本当の責任者が口をぬぐい、イスラエル国家を外側から作ることで『ホロコースト』の償いの責任をパレスチナ人に押し付けたこと②植民地主義とその犠牲者の問題であるという認識がされないまま、この瞬間も大勢の人々が殺傷されている」と捉えて、「暴力と憎しみの連鎖」とか「どちらにも問題」式の第三者的な無責任な見方が横行していること③「20世紀に起こったホロコーストの教訓」を生かせないまま「新しいホロコースト」を見逃さず、「9・11」で世界は変わった」という言い方で反テロ戦争体制を構築、アメリカの一国主義のもとに新しい世界の秩序を作り出そうとしていることの問題を指摘。そして①男中心・ヨーロッパ中心・科学技術の暴走を許す人間中心である大学の改革の必要性②「鏡前」で何を「対話」しなされるか?」が問われ、女性の平和に対する責任が新しい局面にきていることを提起した。片倉氏は、「サラーム(平和)」を挨拶

にするイスラームは、本来違った考えがあっても共生していくことを理念とし、共生を強制しない宗教であることを語り、第2次世界大戦後の西アジアの混乱の原因を「テロ」に求められていることは誤りであると指摘。むしろ「国家によるテロ」の方が恐ろしく、戦後60年曲がりなりに続いている我が国の平和が脅かされていることを懸念。また、ムハンマドを育てた女性実業家を例に、平和を育てる女性の役割について

人は、①西アジアは宇宙の果てだと思っている②一人一人の人間を見ようとして、イメージを決めず、極端な見方をしている③恐れと賞賛、極端な見方をしている④オサマやノーベル平和賞を受賞したシリアン・エバディ、イスラーム法と近代法が混ざり合う中で売春罪や姦通罪で死刑となった女性たちの例をあげて、人々が生きている地域社会の中には風習・文化・精神性など様々な問題があつて、その中に女性たちがいることへの理解を求め、頭から入るのではなく、それ

空爆ばかりがニュースになるが、パレスチナでは日常的に銃声が聞こえ破壊・殺戮がおこなわれていること②イスラエル兵が常駐する70以上の検問所がある、職・学校・病院などへの移動が自治区でさえも自由にできず、日常生活が予測できない形でコントロールされ、深く長く首を絞められていること③経済が成り立たず失業率も増加して、国際援助に頼らざるを得ない状況にあること等。しかし、そのような状況下でもたくましく希望を失っていない人々、特に女性たちが、元気に医療や福祉の分野などでも頑張っていることが付け加えられた。そして、私たちがやれることの手始めとして、日本のODAのやり方の見直しや、兵器規制の問題(最も多くの大量破壊兵器を持ち、クラスター爆弾や劣化ウラン弾など様々な兵器を保有しているのはアメリカである)をあげた。

会場からは、「どうすれば平和に貢献できるのか」という質問がなされ、各パネリストは①現実を見抜く鋭い直感力、伝えられないところを想像する力、培うこと②話し合いの努力や行動力、身をこめて取り組むこと③必要に応じて話し合いの場を自らつくり出すこと④含みのあるお話を明日の議論に生かしたいの思いで討論会が締めくくられた。(広報委員 藤田 典)



左から今井会長、アレズ氏、板垣氏、片倉氏、田村氏

それぞれの地域やそこに住む人々の問題を想像する力と環境を作ってほしいと述べた。そして西アジアの人々との交流もイベント的なもので終わらせず、状況はどういうことが起きているのかを具体的にみていくこと、自分の論理とは違った見方が必要で、「対話」ではなく、女性ならではのそれだけの日常を大事にしなが

の話し合いを促していくことが平和へのアプローチの一つの方法であると提示した。フアクレジャハニ氏は、留学経験から、日本

希望をもつて老後へ — 住居を考えると —

社会福祉委員会 木原 優子

社会福祉委員会では、共に考えたいと願った。メンバーの希望で、人間の安全・安定のための保障である社会福祉・社会保障について学習し始めたが、問題の多さ・仕組みの複雑さに驚くことばかりであった。

また高齢者福祉のさまざまな場面に、夫や両親を看取った後の女性、しかも子や孫と離れて一人暮らしをしている女性たちも必ず通る高齢期に、虚弱になっても住み続けられる所、即ち一つの住処に、私たちの関心は集中した。

議論を重ね、私たちの考える「住居」とは「老いてもなお人間としての尊厳が保たれる生活の場」と考え、セミナー発表によって会員と

会現象が影響していると読み取れる。女性は仲間を求め、教養講座など学習会に参加する人が多く、男性も16年前と比較して、60代以上向けられるのが望ましい。

大学における女性リーダーの役割をめぐって — 歴史的考察の中から —

愛知支部 林 恭子

日本で男女が平等に高等教育を受けるようになったのは第2次世界大戦後である。この女子高等教育を推進したのが、大学婦人協会である。彼女らは当時、ワシントン州立大学の女性学部長Dean of Womenであった。Dean of Womenは、19世紀後半から20世紀の初頭にかけて女子高等教育の拡大期に、男女共学大学の女子への配慮として設けられたものである。学問を渴望する女子学生のためにDean of Womenがどんな役割を果たしたのかを見ることは、高等教育における女性リーダーのあり方の一つのよい示唆である。Dean of Womenという言葉は、大学教員としての質と内容を伴うと同時に、本人の能力、適性、

降の社会参加への意欲が高くなった。受身で終わりがちな生涯学習を、個人の生きがいから、社会へのアクティブな活動に向けられるのが望ましい。

GEM(ジェンダー・エンパワメント指数)と日本の大卒女性の就業状況

国内NGO委員会 松比良 節子

GEM44位という数字は、日本の女性の政治的・経済的意思決定の分野と自らの勤労所得が、諸外国に比べ低いことを表していないだろうか。女性労働白書などを参考にしながら、3つの側面から調査した。大学卒業時の進路状況、企業での大卒女性の就業状況、そして会員で職業欄に記載のあった235名を中心としたデータである。

1. (企業・社会に)長時間労働の是正、男女が生活・育児等の時間とを分けあう。2. (企業・社会に)長時間労働の是正、男女が生活・育児等の時間とを分けあう。3. (大学・企業・行政に)男女に平等の就職のチャンスと、大学院修了者の就職難の解決。4. (女性に)①再就職も含め、継続の必要性を認識して働き、人間らしい働き方を要求していく②「男女の固定的な役割分担」を解消するために「幼児期から男女ともに社会的・生活的自立意識を育む」よう努力する

高齢者として前向きに生きていく方策を探るために、高齢社会に対する世代間の意識調査を行った。16年前と比較検証し、アンケート回収率は65・4%であった。

今回のアンケート調査により、高齢者は、高齢期を衰退期など負のイメージでとらえている人が少なく、健康が最大の関心事である。自立を心がけており、まずは夫婦単位の生活形態を、配偶者亡き後は、一人暮らしを望んでいる。高齢者として望んでいるのは、国際競争・地球環境問題等の社

21世紀に男女平等は実現するか — 地域でともに生きるには —

茨城支部 城 純子

1. 調査研究の趣旨

法的整備は進んでも、実際の男女平等感が薄いのはなぜか、本音の場である家庭や地域が死角となっているのでは、との思いから、バックラッシュが起きている今だからこそ行動することが大切と、茨城支部では、「21世紀に男女平等は実現するか」をテーマに、サブテーマを「地域でともに生きるには」とし、ミ



座を6回、県内各地で展開し、シンポジウムを1回開催した。

2. 結果の概略と考察

行政の参画推進ワークショップチーム向けには、庁内の認識は低く、ある団地の中高年女性の集まりでは、家庭内での夫婦の協力の状況、息子・娘夫婦の現状を中心に話が展開、男女の協力の有無は半々だった。看護師の集まりでは、仕事と家事の両立は大変、すべて半々

に決めたとき、心が楽になったなど、夫の協力はあまり得られていなかった。義母から、息子にわいせつと言われるのはかわいそうと言われるのは、親世代のジェンダーバイアスな状況がまだまだ残存していた。

結婚観の検証をとおり、共同参画社会の実現を考えるシンポジウムでは、男女のパートナー観のブレ、「男らしさの病」といわれる、ジェンダーバイアスによる抑圧や縛り

の男性への影響などを検討。若い世代にとって、結婚する理由にははやや変わった。養われるシステムではなく、また、男性の「親密性」が育てられてこなかったことが、関係づくりの欠如として現れている、などが浮き彫りにされた。

今後は、男女の本音の語り合いの場としてこの出前講座を定着させ、地域の意識改革を促進していきたい。

全国セミナーを終えて

企画委員長 田中正子

本年度の全国セミナーは、来年度予定されている日本中東女性交流につながるものにしてほしいという視野を入れて企画された。この地域が激しい紛争地域であり、日本が国家としても関わり、NGOも草の根の支援活動を活発に行っている。現在、私たちは、多文化理解を踏み出して、平和の実現のために、どのような行動が可能なのか示唆を得たいという願望があった。

「グローバルな21世紀を生きて」平和・平等・教育の視点から「平和」「平等」「教育」の3つの分野に8支部、3委員会からの発言と、招待者によるパネルディスカッション、分科会が行われた。詳細は、年度末に出版される報告書にゆづるが、これからの課題が整理されて提示され、成果のある2日間であった。

「平和」の分野では、比較文化または、多文化理解に焦点があたり、興味深い発表があった。平和の実現に女性性がどのように関わ

るかにについては、パネル討論で補強された。西アジア研究の第一人者である板垣・片倉両氏、イラン人研究者アレズ・ファクレジャハニ氏、パレスチナの子どもの支援を続ける田村祐子氏らをお迎えし、様々な角度から貴重な示唆を与えられた。

「平等」の分野では、男女共同参画社会基本法の制定から5年後の今日、女性の社会進出を阻む様々な性差別の課題が指摘された。新しいところでは、少子化社会対策基本法が持つ女性の権利への警鐘も指摘された。

「教育」の分野では、高齢社会を生き抜くのに必要な社会参画を阻む年齢差別をはじめとする社会制度や教育の課題が指摘され、「教育」の視点を新しい論点に加えられた。

セミナーでの成果は、早急に決議文に集約し、支部での活動に活かしていただきたいと考えている。

最後に、舞台裏を支えてくださった実行委員会の皆様に謝意を表したい。



学連財団の調査をすすめる中東女性交流セミナーの様子。田中正子委員長が挨拶をする。

自治体の男女平等政策とバックラッシュ

女性の地位委員会 増淵民子

1999年に施行された男女共同参画社会基本法は日本版差別撤廃条約ともいえるべきもので、強く推進する必要があるという視点から、会員を対象に調査した。

支部長に推薦を依頼した条例策定委員会、男女平等が問われる委員会経験者のうち、72名から回答があった。調査項目は、同条例の策定・施行の状況、委員会、会員の活動についてだった。調査は、パネラーを指名し、行動が報告でなく傾向を見ること、会員の意見を聞くことに主眼を置いた。

集計結果によると、条例策定では、委員の公募を約半数の自治体が行っているが、委員会の男女構成は男女同数か女性の方が多かった。条例施行後は、年次報告

告、行動計画、推進活動はほとんどの自治体が行っていたが、推進活動にたいして、住民の関心は非常に低かった。しかし、施行後にはよい変化が見られた。

バックラッシュについては、話し合いで解決し、委員会の男女の発言の差は、半数が男、半数が女と回答した。「委員会での男女の発言の差は、半数が男、半数が女」と回答した。「推進活動例」などでは、当委員の、地域での斬新な発言・行動が報告された。条例を男女平等の活動が活発な所であったことも判明した。

提言には、男性の意識改革の必要性、政策決定機関である委員会の見直し、市区町村での条例策定の必要性、ほかを挙げた。

少子化対策基本法を追って

神戸支部 中村京子

昨年成立した少子化対策基本法と次世代育つつつ、市が行う不妊治療

の方策を問う、を皮切りに、高校生ほか2グループに、少子化に対する意識、対策のアイデアなどを、書き込み方式でアンケートを行った。

高校生への設問は「少子化の原因は何だと思いますか」ほか2問。JAW神戸支部会員には少子化対策のアイデアを求め、設問に加え、受精卵診断の賛否を問うた。賛否はほぼ半々だった。

また、支部関係者の20・30歳代の子女には、前記設問のほかに「女性が安心して子どもを産み育てるための環境について、あなたの考えを述べてください」と追加した。結果、高校生をはじめどの層でも、少子化の原因は「女性が働くように

ムスリムの女子に対する家庭教育

アフガニスタンと中国・新疆ウイグル自治区を例に

奈良支部 岩崎雅美

アフガニスタンでは和国の社会主義体制の中「父母が立派な良い家庭から嫁をもらおう」という考えがある。良妻賢母を目指す女子の家庭教育は男子より厳しく、家事の手伝いや裁縫、兄弟の世話など、良い嫁への訓練になっている。

処女が重視され、家族の男子は身内の女子を守る。結婚は生理開始年齢から始まり、一夫多妻で始まる。またピアス、オスマヤヘナ(化粧の一種)を一緒に行う中で、民族の伝統を伝えながら母の繋がりも強めている。

現在の最大の民族問題は、漢語化教育の波である。中国の共通語である北京語を学校教育に導入しようとする国家の意図は、民族の文化の表現や伝承、雇用関係に深刻な問題を投げかけている。

な問題が多発するわが国重要性的に見えてきた。現在の下、子どもの健全な育成についてグローバルな視点から考えていくために、NGOが主催するバンングラデッシュでのワークショップに参加した若者の異文化体験による意識調査を行った。そこで日本の若者が何を「見、何を感じ、どのような見、何を感ずるのだろうか。変わったのだろうか。特に今回のアンケート調査では、異文化体験による価値観の変化や、国際理解への関心の深まりが、問題ではないだろうか。

調査対象は、留学生の多い上位30校と当該地域留学の可能性がある大学、「5女子大学コンソーシアム」参加女子大学など計44大学に調査票・集計表を送付、

て、日本へ学びに来て33校から回答があり回収率75%であった。

調査結果 該当地区の留学生比率は高い大学でも5%以下、0人という大学も5校あった。国費留学生が約6割を占め、イラン・トルコ・エジプトからの留学生が多い。学部生は12%と少なく、博士課程在籍者が57%と最も高率であるが、女性比率は最も低く、17.6%である。女性は少ない、男性の約1/3である。工学系専攻が1/3を占め、医歯薬学・農学・理学系比率が高い特徴がある。留学生受け入れに関する方針として、特別枠などを設けている大学はなかった。

平和構築に向けての教育の役割

日本国憲法と条約から

福島支部 萩原ノリ子

日本国憲法の恒久平和を願う精神は、教育基本法前文の国際協調主義の下での、人格の完成に向けた教育の役割として宣言・訓示化されている。そこでは、法の下の「平和」の意味を明確にし、平和に対する「教育」の役割を究明し、平和を維持し構築するための教育が、国内法や国際法に果たす役割を研究している。

日本国憲法前文や教育基本法前文は、「平和」を念願し、「人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚すること」から、公正と信義に信頼し、安全と生存を保持することを決意して、国際協調の下に、この理想の実現を、教育力の育成に期待している。

国内法や条約などの国際法の「平和」と人権の考察した。

子どもを取り巻く悲惨な現状を多発するわが国重要性的に見えてきた。現在の下、子どもの健全な育成についてグローバルな視点から考えていくために、NGOが主催するバンングラデッシュでのワークショップに参加した若者の異文化体験による意識調査を行った。そこで日本の若者が何を「見、何を感じ、どのような見、何を感ずるのだろうか。変わったのだろうか。特に今回のアンケート調査では、異文化体験による価値観の変化や、国際理解への関心の深まりが、問題ではないだろうか。

調査対象は、留学生の多い上位30校と当該地域留学の可能性がある大学、「5女子大学コンソーシアム」参加女子大学など計44大学に調査票・集計表を送付、

「平和」教育は人権教育と密接な関連がある。そのため、「ひとしく恐怖と欠乏から免れる」子どもの平和への願いから、安全・安心な教育に視点をおき、福島県の子どもの現状について、実態、実施状況の把握のために各機関を訪問し、その報告を受け、今後の平和教育計画をいただき、具体的な結果から、具体的に子どもの人権「基盤」に即した平和教育について考察した。

西アジアおよびエジプトからの留学生の現状

教育委員会 牧島悠美子

目的 「戦争のない平和な21世紀を」冷戦中を浴びる機会が増えてきたは東西陣営の陰に隠れた。多くのムスリムが住表に出ることがなかった。む西アジアに焦点を当

目的 「戦争のない平和な21世紀を」冷戦中を浴びる機会が増えてきたは東西陣営の陰に隠れた。多くのムスリムが住表に出ることがなかった。む西アジアに焦点を当

JAUW新春のつどい

佳き年を、共に寿ぎませんか。

「JAUW新春のつどい」「国内奨学金贈呈式」(国内奨学委員会、社会福祉委員会、東京支部共催)のお誘いです。未来の希望・意欲にあふれる奨学生たちのスピーチに耳を傾け、共に受賞を祝いましょう。初めての方も、ちょっとご無沙汰の方も、いつも忙しい方も、この佳き日にともども、食事・懇談に楽しいひとときを過ごそうではありませんか。

みなさまのご参加を、心よりお待ちしております。

日時 2005年1月8日(土) 11:00~14:00

場所 京王プラザホテル 南館4F 「扇の間」

TEL: 03-3344-0111

会費 10,000円 アトラクションに音楽を予定。

申込先 (社)大学婦人協会本部事務所

Tel: 03-3358-2882 Fax: 03-3358-2889

E-mail: jauw@tky2.3web.ne.jp

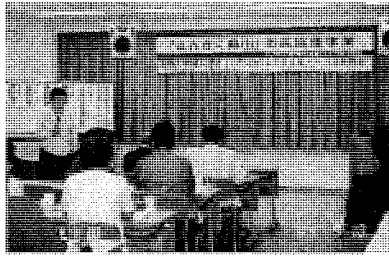
締切日 2004年12月17日(金)

振込先 東京三菱銀行四谷支店

普通預金・口座番号 1077777

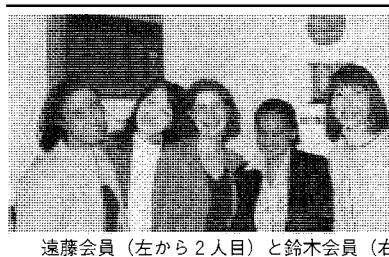
別口座 (社)大学婦人協会 理事 今井 けい

*財務委員会のバザーを行います。寄贈品のご協力とお買い物のご協力お願い申し上げます。



岡山支部は、前年度に続いて今年度も、例会時の催しを外部団体と共同で行うことを計画した。支部総会に、岡山市収入役の高田武子氏が、岡山市男女共同参画推進副本部長としての立場から「豊かな人生のために男女共同参画社会って」のタイトルで講演した。出席した会員は地域に密着している自分たちの役割を認識した。

6月例会は、IFUW青木怜子会長が神戸支部で講演後、岡山県男女共同参画推進センターのエンパワーメント講座で講演をされた。「北京会議から10年」今、国連で問われる女性の課題」の講演には、大勢の聴衆が参加し盛況だった。神戸支部からも2名参加して下さった。先日発行の県センター情報誌にこの講演について掲載され、多くの県民の目にふれることとなった。



遠藤会員(左から2人目)と鈴木会員(右)

講演後、青木会長と会員との昼食会を行い、次いで支部第1回例会として「IFUWへの期待と疑問に答えて」のテーマで和やかに交流を行った。青木先生には、一日中岡山支部会員にお付き合いただいた感謝している。この日ゲスト1名が喜んでくれた。

今後は「外国人による日本語弁論大会」と、岡山市立オリエンタル美術館と共催で「西アジアの社会と文化について」の講演会を計画している。私たちの活動に多くの方々が参加して支部の活性化になっていることを喜んでくれる。

県や市との共同で!

岡山支部は、前年度に続いて今年度も、例会時の催しを外部団体と共同で行うことを計画した。支部総会に、岡山市収入役の高田武子氏が、岡山市男女共同参画推進副本部長としての立場から「豊かな人生のために男女共同参画社会って」のタイトルで講演した。出席した会員は地域に密着している自分たちの役割を認識した。

9月例会は、岡山市男女共同参画社会推進センターの市民協働事業に応募した企画が採用され、市と共同の催しとなった。「IFUW2004年パース大会報告」世界の女性の課題と現状について一緒に考えませんか」のタイトルで、大会に出席した支部会員、岡崎優子・近藤みち子・真邊和美・村岡知子の4名がパワーポイントを使って話をした。真邊会員は岡山市立小学校のICT教育について大会のワークショップで発表し反響を得たことを報告した。

若手会員としてIFUW総会に参加する機会を与えていただき、心よりお礼申し上げます。帰国後、仕事・家事・育児などに追われる生活に戻り、改めて非日常的な時間を過ごしたことを実感しました。

初めて国際会議に参加した私にとって、パースの日々は心地良い緊張感に包まれた有意義なものでした。印象深かった点は、第

この度、当協会から奨励金をいただき、美しいパースでの総会に初参加して参りました。まずは全体会議での青木会長の見事な采配ぶりに感動。更に房野委員、今井会長らが会議場で堂々とスピーチする姿は威厳に溢れ、自分も日本人であることを誇らしく思いました。日本人は皆となしい、というのは昔

合意形成のプロセスを学ぶ

若手会員としてIFUW総会に参加する機会を与えていただき、心よりお礼申し上げます。帰国後、仕事・家事・育児などに追われる生活に戻り、改めて非日常的な時間を過ごしたことを実感しました。

合意形成のプロセスを学ぶ。神奈川支部 鈴木 紀子

第4回自然科学講演会のお知らせ

「物質世界の多様性について —分子の形と運動—

講師 平川 暁子 (科学研究奨励委員会)

放送大学名誉教授・理学博士

日時 12月18日(土) 14:00~16:00

場所 お茶の水女子大学理学部3号館2F 会議室

申し込み 12月15日(水)までにJAUW事務所へ。

皆様のご参加をお待ちしています。会員以外のお友達やご家族などのご来場も歓迎です。

科学研究奨励委員会

(東京支部・お茶の水女子大学と共催)



ヤングメンクラブの集い

の代表とのおしゃべり、閉口した深夜の特大大アツプルパイ攻撃、ラストデイナーでの出しものと語り、仲間たちと見上げた南十字星の美しさ。生涯忘れられない思い出です。奨励金という参加への後押しがなかったら、今回の貴重な経験は有り得ませんでした。改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

<理事会から>

- 平成15年度寄付追加
前号で報告した寄付者に記載もれがありました。心よりお詫び申し上げます。追加報告いたします。
2万円以上 源氏物語を読む会Ⅰ、源氏物語を読む会Ⅱ
その他 楽しい俳句会 (財務委員会)
- 2004年度国内奨学生・社会福祉奨学生決まる。
奨学金贈呈式は、来春1月8日の新春のつどいで。(国内奨学・社会福祉委員会)
- 2004年度国際奨学生が決定。
Aremさん(ナイジェリア、応用生物科学)鳥取大学で研究中。
Mangalikaさん(スリランカ、植物病理学)鹿児島大学連合大学院在学中。(国際奨学委員会)
- 全国セミナーで集約された要望書を、総理大臣と衆参両院議長に提出。(企画委員会)
- NWE理事神田道子氏が入会されました。
- サロンJの学習会「中東について地理学を通して学ぶ」
講師: 東山セツ子会員(お茶の水地理学会会長)
11月27日(土) 1時半から。 於: 事務所 (会員・企画小委員会)

新入会員 (22名) 2004年7月~11月 理事会承認

茨城支部	深澤 倫子 (北海道) 310-0032	茨城県水戸市元山町2-2	原研元山町住宅1-103
栃木支部	上野 通子 (共女) 320-0034	宇都宮市泉町6-22	
東京支部	伊藤 寛子 (敬愛) 983-0014	仙台市宮城野区高砂1-143-4-501	
	神田 道子 (茶) 179-0084	練馬区氷川台4-41-9	
	児林 英子 (ICU院) 251-0027	藤沢市鶴沼桜が岡2-8-3	
	浜田 和子 (東女) 241-0813	横浜市旭区今宿町2561-21	
	濱本 知寿香 (奈女) 175-0092	板橋区赤塚1-30-25	
	東山 セツ子 (茶・明院) 201-0004	狛江市岩戸北3-13-5	
静岡支部	張 真紀子 (上智) 422-8072	静岡市小黒3-5-11	
愛知支部	出口 綾子 (オハイオ) 463-0085	名古屋市守山区大牧町2-3-30	
	福岡 貴代実 (愛知学院) 463-0047	名古屋市守山区小幡常盤20-13	ハイツピオラ1B
金沢支部	江戸 静野 (日女) 923-0000	小松市八幡壬(加賀八幡) 117	
	関 芳恵 (日女) 921-8034	金沢市泉野町3-3-11	
京都支部	田村 和子 (日女) 606-0026	京都市左京区岩倉長谷町377-5	
奈良支部	池原 順子 (奈女) 639-0225	香芝市瓦口2300	
	塚本 幾代 (奈女) 631-0033	奈良市あやめ池南7-862-2	
神戸支部	児玉 美也子 (大女) 659-0094	芦屋市松ノ内町1-10-601	
	高階 時子 (奈女) 679-0200	兵庫県加東郡滝野町上滝野586	
岡山支部	浦上 典江 (青学院) 700-0811	岡山市番町2-3-27	
	James 聖子 (日本・オーストラリア) 703-8233	岡山市高屋338-16	
	福島 裕美子 (吉備国際大) 714-0101	岡山県浅口市寄島町寄島3072	
	森谷 宏子 (広島) 714-0000	笠岡市中央町32-10	

★パソコン講習会のお誘い
興味のある方、初めての方もぜひ!
お問い合わせは、本部事務所か委員会まで。
(情報委員会)



心に残る贈り物

丸大食品

丸大のギフトは、どなたにも喜ばれます

お中元・お歳暮の時期のほか、記念品・新築祝・開店祝・御礼・内祝・快気祝等、いつでもご利用になれます。

特別価格にてご奉仕致します

丸大食品株式会社

関東特販営業部 三宅

〒135-0051 東京都江東区枝川2-23-2

TEL 03(3647)3270 FAX 03(3647)3274

たっぷりの時間をかけて熟成させた最高級ハムギフト